

## 連載 12 そして音楽の旅は続く

### 初めての自分の城が最低限整いました。

1970～80年代の渋谷は今より大人の街でしたね。もちろん若い世代もいましたが西武と東急のデパート、オープンしたてのPARCOを中心としたハイソサエティーな雰囲気でした。優雅なホテル暮らしなのに極貧の私は、休日になると東急東横店の屋上によく行きました。暖かい上着を買えず寒さに震えていましたが、ここでは好きなだけタダで過ごせました。屋上には小動物のペットショップや子供向けの乗り物、時には音楽イベントなどもありました。当時は渋谷でいちばん高い場所だったと思います。屋上から広い空に背伸びをすると気持ち良かったし、ペットショップを覗いては実家の愛犬は淋しがっていないかなあと思ったものです。自分をリセットできるお気に入りの場所でした。

のんきに過ごしていましたがしばらくして、私はヤマハが用意してくれた川崎市鷺沼の住まいへと落ち着くこととなります。あの頃の鷺沼は駅前に交番と小さな東急ストアがあるだけで、辺り一面は草ぼうぼうの空き地ばかり。一度だけ行ったことがある大きなプールがあることが、唯一すごいと思うことでした。家には

ヤマハが素晴らしい高級家具を提供してくれましたけど、古いアパートには不釣り合いで笑ってしまいました。急いでベッド、炊飯器を丸井の分割払いで買いましたが、食生活は相変わらず貧しく白いご飯にふりかけの「磯じまん」しかないというのが定番でした。ときどき九州の母が食材を送ってくれて生き延びていました。まだ宅配便も無い時代なので、九州の郵便局から送ってくれたお布団は汐留で駅留。友達に頼んで車で受取りにいきました。

初めての自分の城が最低限整いましたが、この頃から次第に忙しくなっていました。僅かな専属料では食べていけない、光熱費にも足りないのでディレクターに頼んでギャラを貰える仕事を始めたからです。エメロン石鯛をはじめいろんなCMの歌、作家さんから上がった歌のガイドボーカル等、それと細々と創っていた自作のデモテープもレコーディングしていたのでスタジオ仕事がメインでした。いつもエピキュラスのスタジオにいて、牛丼食べて夜中や朝にタクシー（経費だよ）で帰宅、お風呂に入って寝たら、またスタジオへ。家に居ることは少なかったなあ。そんな

## ジャズボーカリスト 星乃けい

official website  
<https://www.hoshinokei.com>

な時期、高校生の頃からずっと担当し、合歓音楽院特待生に推してくれたディレクターから、新たな担当ディレクターに変わりました。その彼はヤマハでトップのディレクターで、N.S.P、Twist、チェッカーズ、まだ若いChar等を担当していました。そんな売れっ子ディレクターが私の担当にと手を挙げてくれて、とても嬉しかった！これまでも私は、様々な機会にいろいろな方々に引き上げて貰ってきましたが、担当が彼になったことは私のその後を大きく変えました。音楽のことで悩んだときは、彼だったらどうするだろうと今でも指針にしています。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される